

# 誰もが満足できる質の高い福祉、ノーマライゼーションを目指す



社会福祉法人きらくえん  
名譽理事長 市川禮子さん

「平和でないと福祉は成り立たない。」と語る市川禮子さんは、長崎で終戦を迎えた七歳。原爆のきのこ雲を遠くから目撃し、多くの人の死と懸命に救護、介護に係わる人のさまを見た幼い少女時代。その頃から福祉への強い思いが芽生えていたのかも知れない。終戦後、尼崎で共同保育所を運営していた手腕を買われ、「特

市川さんは、高齢で重い障害快適とほほど遠いさまを知った

タツクを派遣し、お年寄りや障害者のためのケア付き仮設住宅を提案。実現し、その後復興公営住宅でも24時間体制で職員を配置。3年2カ月もの間、孤独死ゼロの実績を残した。また半壊した『あしや喜楽苑』も再建した。「神戸に生まれて、神戸が大好きだから恩返しの気持ちでやりました」と話す市川さんは、その後神戸市須磨区に二つ目の全個室ユニットケア型の特別養護老人ホーム「KOBE須磨きらくえん」を実現しようとしている。

「平和でないと福祉は成り立たない。」と語る市川禮子さんは、長崎で終戦を迎えた七歳。原爆のきのこ雲を遠くから目撃し、多くの人の死と懸命に救護、介護に係わる人のさまを見た幼い少女時代。その頃から福祉への強い思いが芽生えていたのかも知れない。終戦後、尼崎で共同保育所を運営していた手腕を買われ、「特

別養護老人ホームをやってみないか」の勧めに北欧に渡り、福祉を学んだ。

学べば学ぶほど当時の日本の施設はとても遅れていて、認知症の人々に廊下で食事をさせたり、ベッド柵に縛りつけたり、まるで収容所さながらの状況に唚然とする。人権を無視して、

市川さんは、すぐさま40人のスタッフを派遣し、お年寄りや障害者のためのケア付き仮設住宅を提案。実現し、その後復興公営住宅でも24時間体制で職員を配置。3年2カ月もの間、孤独死ゼロの実績を残した。また半壊した『あしや喜楽苑』も再建した。「神戸に生

えん』を開設。各専門分野に優れたスタッフを置き、介護も医療も充実させた。今年11月には、同敷地内にサービス付き高齢者向け住宅『フイーカ須磨の丘』がオープンする。一般の人も共有できるレストラン、子どものための「ライブラリー」なども設ける。多世代が集い交流し、文化や芸術も楽しめる魅力的な新しい『まち』になりました。市川さんの思いを乗せた福祉の集大成がもうすぐ実現しようとしている。



**プロフィール** ●1937年神戸市生まれ。保育所の運営を経て、83年に特別養護老人ホーム「喜楽苑」に入職。88年に施設長に就任。97年「あしや喜楽苑」施設長、2001年「KOBE須磨きらくえん」を開設。03年「朝日社会福祉賞」、05年「兵庫県功労賞」、15年「兵庫県社会賞」を受賞。著書「ひと・いのち・地域をつなぐ」など